

取組 8 安全な水の安定供給

取組の評価

2.7 一部に改善を要する

＜ 取組8 の基本方針＞

- 1 水道水の安定供給の確保
- 2 水道水の安全性の確保

3 水道事業の健全経営の確保

【取組の目的】 水道施設の管理を適正かつ計画的に行い、安全な水道水を安定的に供給します。

『 取 組 』 に 係 る 社 会 の 動 向 ・ 本 市 の 現 状 （ 主 な 取 組 ）

《社会の動向》

○事業所や家庭における節水意識の高まりに加え、節水器具等の普及が進むとともに、事業所での生産体制の縮小や海外への機能移転等により、有収水量が伸び悩み、計画通りの料金収入が見込めない傾向にある。また、老朽化した管路の更新や、東日本大震災を踏まえた施設の耐震化対策など、水道事業の経営は非常に厳しい事業環境の変化に直面している。

《本市の現状》 (主な取組)

◎料金収入が伸び悩む中、将来を見据えた効果的な管路の更新と水道事業の効率的な経営を図るため、平成26年3月に袋井市水道事業基本計画、並びに老朽管更新（耐震化）第2次計画を策定するとともに、平成25年度から26年度において民間有識者等で構成する水道料金等懇話会を開催し、経営改善に向けた提言をいただくことにより、安定した経営を目指す。耐震化については、防災面及び有収率の向上を図るため、この20年先を見据えた計画的な推進を図るため、基幹管路（送水管・導水管・大口径配水管）を中心に実施していく。

『取組指標』の分析と評価結果

番号	指 標 名	項 目	H24		H25		
1	基幹管路耐震化率【％】	目 標 値	29.3		30.8		
		実 績 値	29.4		35.3		
		達成率	伸び率	100.3	3.1	114.6	20.0
		評 価	4		4		
2	有収率【％】	目 標 値	90.4		90.6		
		実 績 値	90.2		90.2		
		達成率	伸び率	100.0	0.1	99.5	0.0
		評 価	4		2		
3	営業収支比率【％】	目 標 値	108.1		108.6		
		実 績 値	105.0		106.0		
		達成率	伸び率	97.1	0.5	97.6	0.9
		評 価	2		2		
		目 標 値					
		実 績 値					
		達成率	伸び率				
		評 価					
		目 標 値					
		実 績 値					
		達成率	伸び率				
		評 価					

評価結果の平均値 (A) **2.7**

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果

評価項目	H25	備考欄
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	3	◎ 水道管の更新による有収率の向上に加え、配水系統の再編による効率的なインフラ管理・整備を進めることで、経営の安定に繋がる。 ◎ 毎年、計画的に老朽管の更新を図ることに加え、基幹管路において、耐震性ダクタイル鋳鉄管等を使用し、耐震化を進めることで、大規模地震に備えた生活インフラの構築も推進され、有効な事業実施である。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	3	◎ 水道は市民生活における重要なライフラインであり、安全な水を安定的に供給するためにも、老朽管の更新・耐震化や施設の耐震化などを進めていく必要性は極めて高い。 ◎ 安全な水を安定的に供給するため、老朽管の更新や施設の耐震化を着実に進める必要がある。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	1	◎ 県第4次地震被害想定の内容などからも、大規模地震に対応したBCPの観点で、施設整備を進めていくことが求められる。 ◎ 平成26年3月に策定した老朽管更新（耐震化）第2次計画に沿って、計画的に老朽管更新を進めていく。

評価結果の平均値 (C) **2.3**

《評価基準》

《指標に影響を与えた主な取組、要因》

4:達成率 $\geq 100\%$ ・前年比伸び率 $\geq 0\%$ 3:達成率 $\geq 100\%$ ・前年比伸び率 $< 0\%$ 2:達成率 $< 100\%$ ・前年比伸び率 $\geq 0\%$ 1:達成率 $< 100\%$ ・前年比伸び率 $< 0\%$ ◎老朽管に更新と合わせ幹線管路の耐震化を推進したことで耐震化率の目標を達成した。一方、節水意識の向上や節水器具の普及により給水収益が伸びずに、また、遠州水道の受水費の増により、営業収支比率は目標を下回った。

『 取 組 』 の 総 合 評 価 と 今 後 の 展 開 方 向

取組の評価					
2.7	一部に改善を要する	各評価結果 の平均値	取組指標の 評価結果 (A)	有効性等の 評価結果 (C)	主要事業の 評価結果 (B)
			2.7	2.3	3.0

《 評估基準 》

4 ~ 3.6 : 順調

2.9 ～ 2 : 一部に改善を要する

する

3.5 ～ 3 : 概ね順調

1.9 ～ 1 : 全体的に改善を要

番号	取組の基本方針	H24	H25	今後の展開方向
1	水道水の安定供給の確保			東日本大震災の教訓を活かし大規模地震等に対応したBCPの視点で施設整備に取組、基幹施設の耐震化や水道管に耐震性のダクタイル鋳鉄管、ポリエチレン管を使用するなど、引き続き計画的に災害に強いライフラインを目指す必要がある。
2	水道水の安全性の確保			安全性確保のため、水質検査計画に基づいた水質検査を、引き続き厳格に実施していく。 （現在、業者による毎月の水質検査と、職員による毎日の水質検査が行われており、これらを引き続き実施していく。）
3	水道事業の健全経営の確保			経費の削減に努めるとともに、効率的な配水系統を再編することや、基幹管路の耐震化、基幹施設の耐震化、などを計画的に進め、より収入と支出のバランスを図ることが求められる。平成25年度から26年度にかけ開催されている「水道料金等懇話会」の意見を反映し、安全な水道水の安定的供給のための経営を実現させていく。

《展開方向》

拡充（順調）



扩充（改善必要）



継続推進



縮小



『主要事業』に係る事業評価表の評価結果				
番号	主 要 事 業 名	事 業 評 価 表 の 評 価 結 果		
		有 効 性	効 率 性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	基幹施設耐震化事業	3	3	3
2	緊急時対応システム整備事業	3	3	3
3	老朽管更新事業	3	3	3
4	国・県・市道整備関連配水管布設事業	3	3	3
5	配水系統再編事業	3	3	3
6	小口径老朽管更新事業	3	3	3
7	下水道事業に伴う配水管布設替事業	3	3	3
評価結果の平均値（Ｂ）		3.0	3.0	3.0